

# 第二章 同和問題

- 1 「なかよしの歌をつくろう」……………● 小学校3～4年……25P  
～解放子ども会に学ぶ創作活動を通して～
- 2 「命をかけて村人を守った人々の生き方に学ぼう」……………● 小学校6年……31P  
～村人さえ無事ならば～
- 3 「ああ われらは解放子ども会」……………● 中学校1年……36P  
～解放子ども会の歌に込められた願いと、私たちの課題～
- 4 「部落差別は自分と関係ないこと?」……………● 中学校2年……40P  
～Kさんの生き方に学ぶ学習を通して～
- 5 「真の『法の下での平等』を実現するための気づきと  
あなたにできること」……………● 高等学校3年……45P  
～教科学習（「政治・経済」）から特別活動へつながる人権学習～
- ・「解放子ども会」……………52P
  - ・「解放子ども会のうた」……………53P
  - ・「みんなて話そう」「佐久，ふるさとを愛せるように」……………54P
  - ・「袋の中の免許証」……………55P
  - ・「識字学級」……………57P
  - ・ワークシート
  - 「結婚するって本当ですか?」……………58P
  - 「条件カード」……………59P
  - 「渡る世間の鬼退治！Bingo」……………60P
  - 「振り返りカード」……………61P

同和問題について指導するためには、まず目の前にいる子どもの実態を把握し、この子に、こう指導すれば、このような学びの姿を見せるであろうという指導の見通しを持つことが欠かせません。さらに、教師自身が、まず同和問題とは何かを学び、被差別部落の人々や解放子ども会に学ぶ子どもたちの思いや願いを理解しようとするのが大切です。そして、指導の中核には、差別の中にあっても、やさしく、かしこく、たくましく生き抜いてきた人々の生き方を通して同和問題を学ぶことができる「差別の現実」に学ぶ学習を仕組むことが重要です。また、現実の生活に密着し、学級の中で寂しい思いをしていた自分や友達の問題が、話し合いや具体的な行動を通して解決できた経験を基に、同和問題の解決が実感できる教育計画の立案が望まれます。さらに、参加型の手法も適宜取り入れ、自己の人権意識に気づく学習を行いたいものです。以上の点に留意し、教材の選定や学習展開を工夫したいものです。

第二章では、その観点から大事にとらえて展開した同和問題の学習事例を掲載しました。